

研究の協力のお願い

独立行政法人国立病院機構関門医療センターでは、みなさまに最新の医療を提供するとともに、看護ケアについても医療チームでさらに良いものにしていくための研究に取り組んでいます。そのため、経腸栄養を行った患者さんに対し、多職種による早期栄養介入管理を行うことで下痢の改善に有効であることを明確にし、よりよい医療・看護ケアの提供につなげたいと考えています。そこで、過去のカルテから情報を取得して研究に活用します。趣旨をご理解いただき、ご協力をよろしくお願いいたします。ご希望されない方は、研究責任者までご連絡いただきますよう、お願い申し上げます。

1. 研究課題名

救命救急センターにおける早期栄養介入管理による経腸栄養患者の下痢改善の有効性

2. 研究の目的・意義

重症患者に対する48時間以内の経腸栄養開始が推奨される一方、合併症として下痢が挙げられています。下痢が持続することで栄養状態の低下・電解質喪失、皮膚トラブルを併発し、重症患者では全身状態の悪化の一因となります。そこで、当院の救命救急センターでは、令和5年度より多職種による早期栄養介入管理を行っています。これは日本の医療機関でも令和4年度より導入されたばかりであり、早期栄養介入管理の有効性について述べた文献は少なく、早期栄養介入管理が経腸栄養患者の下痢に有効か否か明らかになっていません。そこで、早期栄養介入管理が下痢の改善に効果があることが明らかとなれば、重症患者の全身状態を改善することに役立つのではないかと考え、今回の研究に取り組むこととしました。

3. 研究方法

令和5年6月1日～令和6年3月31日までの期間で早期栄養介入管理を導入して経腸栄養を行った患者さんと、令和3年4月1日～令和4年3月31日ま

での期間で経腸栄養を行った患者さんの、経腸栄養開始後の7日間のデータの分析を行います。

データの収集内容は以下の通りです。

- (1)年齢
- (2)性別
- (3)疾患名
- (4)在室日数
- (5)排便回数
- (6)排便性状
- (7)入院から経腸栄養開始までの時間
- (8)皮膚トラブルの有無
- (9)抗生剤の使用の有無
- (10)整腸剤の使用の有無
- (11)緩下剤の使用の有無
- (12)半固形化栄養剤の使用の有無
- (13)経腸栄養の投与方法

4. 対象となる患者・期間

令和5年6月1日～令和6年3月31日までの期間で、早期栄養介入管理を導入して経腸栄養を行った患者さんと、令和3年4月1日～令和5年3月31日までの期間で経腸栄養を行った患者さんを対象とします。この調査では合計80名の方にご協力をしていただく予定です。

5. プライバシーの保護

この研究にご協力いただける場合、プライバシーは固く守ります。個人情報の保護のため、研究のデータ及び結果は個人が特定できないように配慮いたします。研究結果を論文やその他の方法で公表する際は匿名性を守ります。また、研究のデータおよび結果は研究の目的以外に用いることはありません。研究終

了後にはデータは5年間保存後に破棄し、情報の流出を防止します。

6. 研究結果の公表方法

研究結果は院内の研究発表会および学術集会で公表いたします。研究結果を知りたい場合は研究責任者までご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

7. 研究への協力の自由意志

ご自身の情報が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。但し、研究発表前の令和7年1月末までに限ります。もしお断りになっても、それによりあなたが受ける医療サービスに関して不利益を被ることは一切ありません。

8. 研究中・終了後の対応

本研究の期間中及び終了後でも、この研究に関する質問がありましたらいつでも下記の連絡先にお問い合わせください。

独立行政法人国立病院機構 関門医療センター

電話番号：083-241-1199(代表)

部署：救命救急センター E1 病棟

研究責任者：出口 真由美

病棟看護師長：柳樂 憲子

2024年8月30日作成 第1版